

やわついで青森県史(1)

県史編さんグループ 近現代部会担当 主幹 中園裕

中園裕

今号から、青森県史の編さん事業で得られた成果を、県民の皆様にお伝えします。

今回は近現代の歴史を紹介します。青森県の近現代史は、廃藩置県で青森県が誕生してから現在までが対象です。

これまでに、廃藩置県があった明治期から、太平洋戦争後の復興期まで、全部で5冊の資料集を刊行しました。昭和30年代以降の高度経済成長期は、これからの扱うことになりましたが、この時期を生きた青森県民の日常について、少しだけ紹介しましょう。

写真は昭和47年9月9日に撮影された青森市のニコニコ通りです。昭和35年前後から青森市の新町通りにアーケードが設置されて以来、他の商店街も取り入れ、弘前市や八戸市など、県内各地の中心街はアーケード街へと変貌していきます。

アーケード内には小売店や専門店が建ち並び、それらの店舗をお客が往復し、買い物や飲食を楽しんでいます。そのためアーケード街は「横のデパート」と呼ばれています。「横のデパート」と呼ばれていました。雪の多い青森県では、特に「横の

デパート」が重宝されました。昭和40年代から50年代にかけては、アーケードの時代といえるかもしれません。

その一方で人々は、市場や露地売りの商人たちが集まる露店街へも頻りに足を運びました。かつては闇市だった露店街ですが、闇市がなくなった後も、売り手と買い手が集まる社交場として存在し続けたわけです。

露店街に来るお客たちは、徒歩か自転車、またはバスを使って買い物にきました。主役は女性たちです。彼女たちは毎日のように、自分の手で持ちきれぬ量を買って、買い物かごに入れて帰ります。まだ冷蔵庫の性能が今ほど完備していなかった時代ですから、1〜2日分を買って帰るのが常でした。

露店街やアーケード街は、基本的に小さな専門店の集まりです。お客たちは複数の売り場を渡り歩いて野菜や果物、肉や魚、雑貨品などを買い求めます。もちろん、黙って買い物する人は少なかつたと思えます。必ずといって良いほど、顔なじみの店主を見つけては、おしゃべりに花を咲かせます。お客同士で会話が弾むこともしばしば。この会話の



青森市ニコニコ通りの露店街(昭和47年9月9日・松村泰雄さん撮影・青森県史編さん資料)

ひとときが、当時の女性たちの楽しみでもあったのです。

しかし、この露店街やアーケード街は、昭和50年代以降に本格化する自動車社会の到来で姿を変えていきます。郊外に広い駐車場を備えた大型スーパーが進出し、土日に自動車で駆けつける家族が、安い商品を大量に買い求めるようになったからです。

今回は、これから本格的な編さんに入る高度経済成長期の青森県を、少しだけ紹介しました。平成26年3月には、これらの成果を詰めた『青森県史資料編近現代6 高度経済成長期の青森県(仮題)』を発刊する予定です。

県民生活文化課 県史編さんグループ ☎017-734-9238

申吾のほろこりん

青森県知事 三村 申吾

楽しもう！私たちの青森

4月のある日曜日、秘書課の懇親ピクニック会で、八甲田山経由で奥入瀬、十和田湖を巡ってきた。

先ずは、久々に通った本格的な雪の回廊には度肝を抜かれた。

国内や韓国、台湾等での青森旅行フェアで、「すごいですよ、こんな景色見たことありますか。今年は特に大雪だったからまだまだ見られます」とPRをしていたのだけれど、これで真実を真顔で語れる事になった。

「歩けや奥入瀬三里半」の大町桂月先生には、はしょって申し訳ないのだが、溪流は要所所まで歩いた。

阿修羅の流れや、飛金の流れは昔からお気に入りポイントだが、今回特に、「一目四滝(白絹、白糸、不老、双白髪)から、銚子大滝への歩きは、齢50余年にして感激、大であった。

なんと、私たちの奥入瀬は美しく、しかも趣きに富んでいるのだろうか。子ノ口から休屋は、もちろん遊覧船。小学生の頃から、乗船する度のワクワク・ドキドキ感は変わらない。

乗船口で運航会社の社長さん自らが、お客さん方に声をかけている姿には、熱いものを感じた。

デッキで写真を撮っているうちに、私たちが乗り込んだ遊覧船は湖面を滑るように動き出した。

ガイドさん独特の、思いを込めた節回しの解説を聞きながら、ノスタルジックにあの日は、あの時は、誰々と乗ったなああと、さまざまなお話を思い出した。

中湖で、すれ違う休屋からの遊覧船にみんな手で手を振り、向うも手を振って応えてくれた。これも船の楽しみだ。

湖の主「八之太郎」と「南祖坊」の7日7晩の激戦の跡といわれる絶壁の赤色に、思いを馳せる間に、船は中山半島に回り込んで、乙女の像を左手に見ながら休屋へ到着した。

像のところには台湾の方々が大勢来て下さっていて、昨年来のセールスの手応えを感じた。

休屋では、昔ながらの熱々の生そばが、身も心も温めてくれて、とても美味しかった。実に楽しい一日だった。

八甲田・奥入瀬・十和田湖は私たち青森県人には小さな頃から慣れ親しんだ、もっとも馴染み深い観光スポットである。

しかし、今回あらためて身近にこんな秀逸な、特A級に素晴らしい国際的観光資源を持っている青森の力に感激した。

大震災以来、国内外のお客様が戻り来られない状況ではあるが、そんな時だからこそ県民の皆様それぞれに、子ども時代以来懐かししの県内観光スポットを訪れていただきたいと思っている。

それを何よりのエネルギーとして、観光の元氣復活を進めていきたい。